薬　剤　部

１　構　成　員

	平成 26 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
病院教授	0 人
准教授	0 人
病院准教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人　（0 人）
病院講師	0 人
助教（うち病院籍）	0 人　（0 人）
診療助教	0 人
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人　（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	36 人
その他（技術補佐員等）	8 人
合計	45 人

２　教員の異動状況

川上　純一（教授）（H18.4.1～現職）

３　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成 25 年度
（1）原著論文数（うち邦文のもの）	9 編　（0 編）
そのインパクトファクターの合計	23.01
（2）論文形式のプロシーディングズ及びレター	4 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
（3）総説数（うち邦文のもの）	9 編　（9 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
（4）著書数（うち邦文のもの）	1 編　（1 編）
（5）症例報告数（うち邦文のもの）	0 編　（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

（1）原著論文（当該教室所属の者に下線）

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Motohashi S, Mino Y, Hori K, Naito T, Hosokawa S, Furuse H, Ozono S, Mineta H, Kawakami J: Interindividual variations in aprepitant plasma pharmacokinetics in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy for the first time. Biol Pharm Bull 36: 676–681, 2013

2. Naito T, Tashiro M, Ishida T, Ohnishi K, Kawakami J: Cancer cachexia raises the plasma concentration of oxymorphone through the reduction of CYP3A but not CYP2D6 in oxycodone-treated patients. J Clin Pharmacol 53: 812–818, 2013

3. Satoh H, Ide N, Kagawa Y, Maeda T: Hepatic steatosis with relation to increased expression of peroxisome proliferator-activated receptor-γ in insulin resistant mice. Biol Pharm Bull 36: 616–623, 2013

4. Yagi T, Naito T, Doi M, Nagura O, Yamada T, Maekawa M, Sato S, Kawakami J: Plasma exposure of free linezolid and its ratio to MIC varies in critically ill patients. Int J Antimicrob Agents 42: 329–334, 2013

5. Tashiro M, Naito T, Ohnishi K, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of genetic and non-genetic factors on clinical responses to prochlorperazine in oxycodone-treated cancer patients. Clin Chim Acta 429: 175–180, 2014

6. Naito T, Yamada T, Yagi T, Kawakami J: Simple and validated UHPLC method coupled to UV detection for determination of daptomycin in human plasma and urine. Biomed Chromatogr 28: 317–319, 2014

インパクトファクターの小計　　［　15.871 ］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: An algorithm for the identification of heparin-induced thrombocytopenia using a medical information database. J Clin Pharmacol Ther 38: 423–428, 2013

2. Takahashi Y, Nishikawa M, Shinotsuka H, Matsui Y, Ohara S, Imai T, Takakura Y: Visualization and in vivo tracking of the exosomes of murine melanoma B16-BL6 cells in mice after intravenous injection. J Biotechnol 165: 77–84, 2013

3. Kodama Y, Harauchi S, Kawanabe S, Ichikawa N, Nakagawa H, Muro T, Higuchi N, Nakamura T, Kitahara T, Sasaki H: Safe and effective delivery of small interfering RNA with polymer- and liposomes-based complexes. Biol Pharm Bull 36: 995–1001, 2013

インパクトファクターの小計　　［　7.136　］

（２－１）論文形式のプロシーディングズ

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 田中紀章, 内藤隆文, 八木達也, 土井松幸, 佐藤重仁, 川上純一: 術後患者におけるフェンタニルとノルフェンタニルの体内動態に及ぼす腎機能の影響. 臨床薬理 44: S237, 2013
2. 山田尚広, 見野靖晃, 八木達也, 内藤隆文, 川上純一: 易感染性患者におけるボリコナゾールの非線形薬物動態と N オキシド体への代謝飽和性の評価. 臨床薬理 44: S237, 2013
3. 内藤隆文: 医師と薬剤師が手を結ぶ薬物治療を目指して. 薬剤師の薬物治療における教育研修への取り組みと研究活動との関わり. 臨床薬理 44: S136, 2013

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 渡邊崇, 小川喜寛, 木村通男, 堀雄史, 川上純一, 頭金正博: 医療情報データベースを活用した副作用としての無顆粒球症の検出に関する研究. 臨床薬理 44: S280, 2013

（３）総　　説

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 八木達也, 内藤隆文, 山田尚広, 川上純一: 症例 1: SA）髄膜炎患者に対する抗 MRSA 薬の投与. Jpn Pharmacol Ther（薬理と治療） 41: 734–737, 2013
2. 堀雄史, 川上純一: 医薬品等の市販後安全対策のための病院医療情報データベースを活用した薬剤疫学研究. 特集: これからの市販後安全対策，レギュラトリーサイエンス学会誌 3: 151–155, 2013
3. 川上純一: 挑戦しよう！学会発表. Special feature, ApoTalk 71: 2–5, 2013
4. 川上純一: 第 18 回浜名湖臨床薬理セミナーを開催するにあたって: エビデンスと医薬品の価値. Jpn Pharmacol Ther（薬理と治療） 41: 730, 2013
5. 川上純一: 薬剤師がつくる研究論文-組織運営と医療貢献に貢献. 編集長 VISITING, 医薬ジャーナル 49: 2896–2901, 2013
6. 加藤真也, 内藤隆文, 間賀田泰寛, 川上純一: FDG 品質検査試験業務による放射線被ばくに対するリスクマネジメントを目的とした職員訓練用プログラムの構築. 連載: リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～（87）. 医薬ジャーナル 50: 1005–1008, 2013
7. 内藤隆文: 製薬企業による医薬品リコールの実態調査とその要因分析. 医療の広場 54: 13–17, 2014
8. 川上純一: 巻頭言: 男女共同参画社会づくり宣言書. 静岡県病院薬剤師会会報 63: 4–6, 2014
9. 平野公美, 堀雄史: 病棟薬剤業務実施加算への取組. 特集Ⅰ. 病棟薬剤業務実施加算への取組. 静岡県病院薬剤師会会報 63: 18–19, 2014

インパクトファクターの小計　　［　0　］

（４）著　　書

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 内藤隆文, 川上純一（分担執筆）: モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト 第 3 版. 病院・薬局実務実習東海地区調整機構／監、実務実習テキスト作成研究会／編, じほう, p.19–20, p.26–28, 東京, 2013

４　特許等の出願状況

	平成 25 年度

特許取得数（出願中含む）	0 件

５　医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 25 年度	
（１）文部科学省科学研究費	10 件	（730 万円）
（２）厚生労働科学研究費	1 件	（834 万円）
（３）他政府機関による研究助成	0 件	（0 万円）
（４）財団助成金	3 件	（300 万円）
（５）受託研究または共同研究	0 件	（0 万円）
（６）奨学寄附金その他（民間より）	0 件	（0 万円）

（１）文部科学省科学研究費

1. 川上純一（代表），内藤隆文（分担）：平成 25 年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「がん性疼痛緩和に用いる鎮痛薬の個人差要因に基づく至適薬物療法の構築」110 万円（平成 24–26 年度, 360 万円）（継続）
2. 内藤隆文（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，若手研究（B）「オピオイド投与患者におけるプロクロルペラジンの体内動態と薬効・副作用との関係解明」110 万円（平成 23–25 年度, 330 万円）（継続）
3. 丸山修治（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，若手研究（B）「治療抵抗性関節リウマチ患者におけるタクロリムスの薬効・副作用の変動予測法の構築」80 万円（平成 23–25 年度, 330 万円）（継続）
4. 等浩太郎（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，若手研究（B）「がん患者におけるオピオイドの鎮痛効果とドパミン神経系に及ぼす影響との関係解明」110 万円（平成 25–27 年度, 330 万円）（新規）
5. 川上純一（分担），堀雄史（分担），佐井君江（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「医療情報データベースを用いた免疫関連バイオ医薬品と化学薬品間の相互作用評価」20 万円（平成 25–27 年度, 390 万円）（新規）
6. 髙井伸彦（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，奨励研究「新規制吐薬アプレピタントの脱カプセル化が薬効および薬物動態に及ぼす影響」60 万円（新規）
7. 石田卓矢（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，奨励研究「非小細胞肺癌患者におけるエルロチニブの血中動態に及ぼすがん悪液質の影響」60 万円（新規）
8. 髙科嘉章（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，奨励研究「神経障害性疼痛に対するプレガバリンの治療反応性に影響を及ぼす要因の検討・解析」60 万円（新規）
9. 久保野尚子（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，奨励研究「授乳婦におけるアムロジピンの血中濃度に及ぼす因子の解明」60 万円（新規）
10. 田代将貴（代表）：平成 25 年度科学研究費補助金，奨励研究「がん患者におけるドパミン D2 受容体遮断薬による高プロラクチン血症の誘発因子の探索」60 万円（新規）

（２）厚生労働科学研究費

1. 川上純一（代表），堀雄史（分担），木村通男，大江和彦，中島直樹，横井英人，池田俊也，斎

藤嘉朗, 頭金正博: 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金, 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究」（平成 23–25 年度, 834.4 万円）（継続）

（４）財団助成金

1. 八木達也（代表）, 川上純一（分担）, 内藤隆文（分担）, 土井松幸: 臨床薬理研究振興財団, 38 回研究奨励金（平成 25 年度）「集中治療管理下におけるデクスメデトミジンの鎮静効果および有害作用の個体差要因の解明」200 万円（新規）
2. 見野靖晃（代表）, 内藤隆文（分担）, 川上純一（分担）: 中富健康科学振興財団, 平成 25 年度（第 26 回）研究助成金「高尿酸血症患者におけるキサンチンオキシダーゼ活性に基づく新規尿酸管理法の構築」100 万円（新規）
3. 見野靖晃: 日本病院薬剤師会（平成 25 年度）「Medication errors in prescription, dispensing, and administration of medicines to the child patients in Hamamatsu University Hospital」. ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議参加助成

７　学会活動

	国際学会	国内学会
（１）特別講演・招待講演回数	0 件	2 件
（２）シンポジウム発表数	0 件	5 件
（３）学会座長回数	0 件	14 件
（４）学会開催回数	0 件	0 件
（５）学会役員等回数	1 件	49 件
（６）一般演題発表数	6 件	

（１）国際学会等開催・参加

5）一般発表

ポスター発表

1. Naito T, Tashiro M, Ishida T, Ohnishi K, Kawakami J: Cancer cachexia raises the plasma concentration of oxymorphone through the reduction of CYP3A but not CYP2D6 in oxycodone-treated patients. 11th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics. Aug 2013 (Geneve, Switzerland)

2. Yamada T, Mino Y, Yagi T, Naito T, Kawakami J: Metabolic process of voriconazole to its N-oxide is saturable in clinical dose range. 11th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics. Aug 2013 (Geneve, Switzerland)

3. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: Development of an algorithm for detecting heparin-Induced thrombocytopenia and assessment of the risk factors using a medical information database. 29th ICPE (International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management). Aug 2013 (Montreal, Canada)

4. Naito T, Kubono N, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: Amlodipine passage into breast milk in lactating women with pregnancy-induced hypertension. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2013; 73rd International Congress of FIP. Sep 2013 (Dublin, Ireland)

5. Yagi T, Naito T, Yamada T, Doi M, Sato S, Kawakami J: Contribution of pharmacists to antimicrobial therapy in intensive care unit through a therapeutic drug monitoring of linezolid in a Japanese hospital. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2013; 73rd International Congress of FIP. Sep 2013 (Dublin, Ireland)

6. Mino Y, Naito T, Kasahara K, Terasaka H, Kawakami J: Medication errors in prescription, dispensing, and administration of medicines to the child patients in Hamamatsu University Hospital. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2013 Midyear). Dec 2013 (Orlando, USA)

（２）国内学会の開催・参加

2） 学会における特別講演・招待講演

1. 川上純一: がん性疼痛緩和領域における個別化薬物療法の構築. 第 34 回日本臨床薬理学会学術総会・臨床薬理研究振興財団. 2012 年度（第 23 回）学術奨励賞研究成果発表, 東京, 2013 年 12 月
2. 川上純一: 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. 佐藤記念国内賞受賞講演, 日本薬学会第 134 年会, 熊本, 2014 年 3 月

3）シンポジウム発表

1. 内藤隆文: 実践と高度ジェネラリストの人材育成. 第 23 回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013 年 9 月
2. 内藤隆文, 田中紀章, 川上純一: 周術期医療で薬剤師が担うべきことを考える. 術後疼痛の個別化薬物療法を目的とした遺伝子多型の利用. 第 23 回日本医療薬学会年会, 仙台, 内藤隆文: 薬物療法専門薬剤師の現状と将来展望. 高い専門性に基づく薬物治療業務の 2013 年 9 月
3. 内藤隆文: 医師と薬剤師が手を結ぶ薬物治療を目指して. 薬剤師の薬物治療における教育研修への取り組みと研究活動との関わり. 第 34 回日本臨床薬理学会年会, 東京, 2013 年 12 月
4. 八木達也: 集中治療室における病棟薬剤業務. 病棟薬剤師業務の実際 ～実務担当者からの報告～ . 第 27 回静岡県病院薬剤師会学術大会, 静岡, 2014 年 2 月
5. 内藤隆文, 川上純一: がん患者における麻薬性鎮痛薬の薬物動態および臨床効果の個人差要因. 麻薬性鎮痛薬による適切な疼痛緩和治療を目指した薬物トランスポーター研究の最前線. 日本薬学会第 134 年会, 熊本, 2014 年 3 月

4）座長をした学会名

1. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会西部支部例会（7 月）
2. 川上純一: 医療薬学フォーラム 2013／第 21 回クリニカルファーマシーシンポジウム,
3. 川上純一: 第 29 回東海医療薬学シンポジウム
4. 川上純一: 日本病院薬剤師会関東ブロック第 43 回学術大会

5. 内藤隆文: 第 7 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
6. 川上純一: 平成 25 年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会／学術フォーラム
7. 川上純一: 第 34 回日本臨床薬理学会学術総会
8. 川上純一: 日本医療薬学会シンポジウム「薬剤師が担う」
9. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会西部支部例会（2 月）
10. 川上純一: 静岡県西部支部理事・評議員会
11. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会西部支部例会（3 月）
12. 川上純一: 平成 25 年度日本病院薬剤師会医療政策部セミナー
13. 川上純一: 日本薬学会第 134 年会
14. 川上純一: 日本薬学会第 134 年会

（３）役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 川上純一: 日本病院薬剤師会　常務理事
2. 川上純一: 日本病院薬剤師会　医療政策部　部長
3. 川上純一: 日本病院薬剤師会　学術委員会　委員
4. 川上純一: 日本病院薬剤師会　学術奨励賞選考委員会　委員
5. 川上純一: 日本病院薬剤師会　将来計画委員会　委員
6. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会　会長
7. 内藤隆文: 静岡県病院薬剤師会　評議員
8. 鈴木吉成: 静岡県病院薬剤師会　学術部　感染制御専門薬剤師部門 委員長
9. 川上純一: 国際薬剤疫学会　医薬品使用実態研究部会　運営委員（Steering committee member）
10. 川上純一: 日本医療薬学会　理事
11. 内藤隆文: 日本医療薬学会　代議員
12. 川上純一: 日本医療薬学会　広報委員会　委員長
13. 川上純一: 日本医療薬学会　企画・シンポジウム委員会　委員長
14. 川上純一: 日本医療薬学会　国際交流委員会　委員
15. 川上純一: 日本医療薬学会　学術貢献賞・奨励賞等選考委員会　委員
16. 川上純一: 日本医療薬学会　論文賞選考委員会　委員
17. 内藤隆文: 日本医療薬学会　認定薬剤師認定制度委員会　委員
18. 川上純一: 日本医療薬学会　第 24 回（平成 26 年度）年会組織委員会　委員
19. 内藤隆文, 堀雄史: 日本医療薬学会　第 24 回（平成 26 年度）年会実行委員会　委員
20. 川上純一: 日本臨床薬理学会　評議員
21. 川上純一: 日本臨床薬理学会　広報委員会　委員
22. 川上純一: 日本臨床薬理学会第 34 回（平成 25 年度）学術総会プログラム委員
23. 川上純一, 内藤隆文: 日本薬学会　代議員
24. 川上純一: 日本薬学会　医療薬科学部会　常任世話人
25. 内藤隆文: 日本薬学会　医療薬科学部会　次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム若手世話人
26. 川上純一: 日本薬学会　東海支部　幹事
27. 川上純一: 日本薬物動態学会　評議員

28. 川上純一: 日本薬物動態学会　学会活動活性化委員会　委員
29. 川上純一: 日本薬剤学会　評議員
30. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会　評議員
31. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会　国際委員会　副委員長
32. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会第 8 回学術大会　組織委員会委員
33. 内藤隆文: 日本 TDM 学会　TDM ガイドライン策定委員会　委員
34. 川上純一: 静岡県公立大学法人静岡県立大学　客員教授
35. 川上純一: 静岡県公立大学法人静岡県立大学　平成 25 年度教員特別研究推進費学外審査委員
36. 川上純一: 厚生労働省　医道審議会　薬剤師分科会　専門委員
37. 川上純一: 厚生労働省･中央社会保険医療協議会･保険医療専門審査員（診療報酬調査専門組　織　医療機関コスト調査分科会　委員）
38. 川上純一: 厚生労働省　中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員（薬価算定組織　委員）
39. 川上純一: 厚生労働省　中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員（診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会　委員）
40. 川上純一: 厚生労働省　チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ　委員
41. 川上純一: 厚生労働省　中央社会保険医療協議会　平成 24 年度診療報酬改定結果検証に係る調査検討委員会（委託事業）委員
42. 川上純一: 厚生労働省　医療情報データベース基盤整備事業のあり方に関する検討会　構成員
43. 川上純一: 静岡県　薬事審議会　委員
44. 川上純一: 静岡県薬事振興会　理事
45. 川上純一: 静岡県薬剤師研修協議会　委員
46. 川上純一: 東海地区薬学部学生病院・薬局実務実習調整機構　委員
47. 川上純一: 静岡県立大学　研究倫理審査委員会委
48. 川上純一: 独立行政法人科学技術振興機構（JST）研究成果最適展開支援プログラム　（A-STEP）専門委員

８　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1 件	2 件

（１）国内の英文雑誌等の編集

川上純一: Biological and Pharmaceutical Bulletin 日本薬学会　学術雑誌編集委員会　委員
PubMed/Medline 登録有, IF 1.849

（２）外国の学術雑誌の編集

1. 川上純一: 国際薬剤疫学会　学会誌（Pharmacoepidemiology and Drug Safety）編集委員（Associate editor）　PubMed/Medline　登録有, IF 2.897
2. 川上純一: The Open Drug Metabolism Journal　編集委員（Editorial advisory board）PubMed/Medline 登録無し, IF 無し

（３）国内外の英文雑誌のレフリー

1. 川上純一: Biomed Chromatogr（1 件）（UK）
2. 川上純一: J Pharmacol Exp Ther（1 件）（USA）

９　共同研究の実施状況

	平成 25 年度
（１）国際共同研究	0 件
（２）国内共同研究	4 件
（３）学内共同研究	9 件

（２）国内共同研究

1. 賀川義之（静岡県立大学）：がん患者における制吐薬の体内動態と薬効および有害反応と　の関係
2. 杉原正久（沢井製薬）：産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
3. 辻泰弘（富山大学）：日本人におけるテイコプラニンの母集団薬物動態解析
4. 齋藤嘉朗, 佐井君江, 花谷忠昭（国立医薬品食品衛生研究所）, 頭金正博（名古屋市立大学）：医療情報データベースを用いた副作用検出方法に関する検討

（３）学内共同研究

1. 小川法良（免疫内科）：関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害 反応との関係
2. 大西一功（血液内科）：多発性骨髄腫における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
3. 土井松幸（集中治療部）：重症感染症患者における抗菌薬の血中動態、薬剤感受性および組織移行性の評価
4. 土井松幸（集中治療部）：術後疼痛に対する鎮痛薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
5. 土井松幸（集中治療部）：集中治療管理下における鎮静剤の臨床効果および有害作用の個人差要因の解明
6. 佐藤重仁（麻酔科蘇生科）：術中疼痛に対する鎮痛薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
7. 須田隆文（呼吸器内科）：非小細胞肺がん患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
8. 伊東宏晃（周産母子センター）：産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
9. 木村道男（医療情報部）：臨床研究情報システムを用いた副作用の検出方法に関する検討

10　産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11　受　　賞

（1）国際的な授賞

1. Takahiro Yamada: EACPT Congress Scholarships, 11th EACPT Congress 2013 (Geneva, Switzerland)

2. Yoshiaki Takashina, Takafumi Naito, Yasuaki Mino, Tatsuya Yagi, Kazunori Ohnishi, Junichi Kawakami: 2013 年度 DMPK 賞, DMPK Editors' Award for the Most Excellent Article in 2012, 3rd Place. Impact of CYP3A5 and ABCB1 gene polymorphisms on fentanyl pharmacokinetics and clinical responses in cancer patients undergoing conversion to a transdermal system. Drug Metabolism and Pharmacokinetics, 27, 414-421, 2012

（3） 国内での授賞

1. 川上純一: 日本薬学会平成 26 年度佐藤記念国内賞. 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. 日本薬学会第 134 年会, 熊本, 2014 年 3 月

15　新聞，雑誌等による報道

1. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会　総会並びに学術講演会を開催（記事）. 薬事新報 No. 2781（2013 年 4 月 11 日）, p.22–23
2. 川上純一: 医科調剤料のアップ要望は見送り　次期改定で日病薬、日薬と共闘（記事）. メディファクス No. 6640（2013 年 7 月 17 日）, p.1
3. 川上純一: 持参薬考慮した服薬計画提案、病院薬剤部の 8 割　日病薬調査: 持参薬の議論「病院と保険薬局の両面で」日病薬・川上氏（記事）. メディファクス No. 6693（2013 年 10 月 4 日）, p.3
4. 川上純一: 日病薬調査　持参薬考慮した服薬計画提案、病院薬剤部の 8 割（記事）. 日刊薬業 No. 13809（2013 年 10 月 7 日）, p.8
5. 川上純一: 調剤報酬からの「財源移譲」論は筋違い: 日病薬・川上常務理事 病棟業務実施加算は精神・療養の日数拡大を. リスファクス No. 6431（2013 年 10 月 18 日）, p.1
6. 川上純一: 日病薬調査　持参薬考慮した服薬計画提案、病院薬剤部の 8 割（記事）. 日刊薬業 No. 13809（2013 年 10 月 7 日）, p.8
7. 川上純一: 医療情報 DB 検討会 「廃止論」行政事業レビューの指摘に反論相次ぐ（記事）. 日刊薬業 No. 13876（2014 年 1 月 21 日）, p.4–5
8. 川上純一, 魚住りえ: 新薬とジェネリック医薬品の違い. くらしを変える、薬のはなし Vol. 2（広告企画）, 毎日新聞（全国版朝刊）No. 49615（2014 年 1 月 22 日）
9. 川上純一: 日病薬・北田会長　病棟加算拡大を評価、精神・療養でも 8 週間算定可能（記事）. リスファクス No. 6510（2014 年 2 月 17 日）, p.6
10. 内藤隆文, 堀雄史: 薬剤部訪問　浜松医科大学医学部附属病院. Excellent Hospital 23: 10–11, 2014
11. 川上純一: 日病薬北田現会長を信任　学術活動の活性化目指す（記事）. 薬事日報 No. 11388（2014 年 2 月 19 日）, p.1
12. 大澤隆志, 内藤隆文, 見野靖晃, 大西一功, 川上純一: 多発性骨髄腫患者におけるボルテゾミブ皮下投与後の血球移行性と血中動態の評価. 報道機関向け講演ハイライト, 日本薬学会第 134 年会, 熊本, 2014 年 3 月